

申請者	看護部	山田 早苗
29	神経筋難病患者における患者・家族参画型看護計画の実践 ～ 外出・外泊・退院を目標に～	
研究の概要	当病棟は、神経難病病棟であり、運動障害や認知障害をもつ神経難病患者が入院患者数の8割を占めている。看護は、日常生活の援助を中心とした看護であるが、患者及び患者家族の参画した看護計画の実践は実施していない。構音障害や運動機能障害などでコミュニケーションがとりにくく、患者の思いを十分に理解しないで日常生活援助が行われているのが実状である。また、ほとんどの患者家族は、病気の進行と共に日常生活援助の困難さを感じ、自宅に帰りたいという患者の思いに反し、家族は退院してもらいたくないという声も聞かれる。そこで、患者・患者家族・看護師の3者の連携を密にするために患者・家族参画型看護計画を実施し、日常生活面での援助方法を伝え、一緒に行っていくことで、日常生活援助に対する不安が解消し、外出・外泊の実施や退院ができるのではないかと考え、取り組みたい。	
判定	承認	

申請者	看護部	松井 節子
30	閉鎖病棟における喫煙者に対する意識調査 - 禁煙への取り組み -	
研究の概要	社会が禁煙を推進している中、当病棟での喫煙者から健康に対する不安が殆ど聞かれないので喫煙の害に対してどう思っているかを知りたいと思い意識調査を実施し、禁煙出来ない要因を分析することにより、今後禁煙に向けて働きかけていく。	
判定	承認	

申請者	看護部	永田 智雅
31	強い不安・焦燥感があるアルツハイマー型認知症患者への看護 - バリデーションを取り入れて -	
研究の概要	不安・焦燥感の訴えが多く、常に声を出して自分の思い(要求)が通じるまで訴え続ける患者様に対して、先行研究で、認知症の人との新しいコミュニケーションの「バリデーション」を取り入れたら、「暴言暴力が減り、表情が穏やかになった。」等の事例が報告されている。そこで、当該症状の患者様に「バリデーション」を用いて関わることで、不安・焦燥感の訴えが減少することを目的に取り組む。	
判定	承認	

申請者	看護部	石黒 明美
32	「北陸病院の医療観察法病棟における看護師のやり甲斐」 ストレスに対するコーピングから魅力を探る	
研究の概要	医療観察法病棟に従事する看護師は、新しい事への挑戦でやり甲斐を感じる反面、触法行為を行った精神障害者へのケアが、よりストレスになる可能性は高くバーンアウト発生率が他病棟に比べて高いと報告されている。今回、このようなストレスに曝されているにも係わらず何故等病棟に勤務し続けているのか各個人がどのようなコーピング行動をとっているのか検証し当病棟の魅力を探る。	
判定	承認	

申請者	看護部	山形 仁子
33	長期隔離患者の健康な一面に着目した看護 BPRS(簡易精神症状評価尺度)を用いて看護介入を振り返る	
研究の概要	長期間にわたり隔離室を使用している場合であっても、患者にとって興味のあることを行っているときは落ち着いている時がある。そこで、対象者の「健康的な一面」「その人らしい一面」に焦点を当て看護介入することで精神状態の悪化の予防、および安定を図る。そして看護介入の前後でBPRS(簡易精神症状評価尺度)を用いて精神状態の評価を行い、看護介入を振り返る。また隔離時間の短縮を目指すための参考とする。	
判定	承認	

申請者	看護部	井上 桂子
34	動く重症心身障害児のダイエット - リバウンド防止への原因分析についての一事例 -	
研究の概要	入院期間中は順調に体重減少がみられたが、外泊時に体重の減少が止まってしまう原因分析をおこなう。 分析結果を基に、家族と共にリバウンド防止できるよう援助をおこなう。	
判定	承認	

申請者	看護部	井上 桂子
35	指しゃぶりした手指で右眼を触る、一連の行動を減らす取り組み	
研究の概要	指しゃぶりした手指で右眼を触る、一連の行動で右眼の周囲が発赤・腫脹・充血・眼脂がひどくなる患者に、発達検査にあった関わりや指しゃぶりの減少に効果があった事例であるオルゴールCDの効果があるのではないかと思います、看護研究に取り組む。	
判定	承認	

申請者	療育指導室	大宅 京子
36	強度行動障害者への取り組み - 食事場面の行動改善を試みて -	
研究の概要	自傷や他害などの行動異常、特に食事関係の著しい障害により体重減少が見られる患者に対し、行動異常を引き起こす本人の要因や環境要因をふまえて、コミュニケーション行動を読み取りながら関わる対応を進め、理解や認知がしやすいように働きかけることにより、行動障害の改善につながっていくのではないかと考え研究に取り組む。	
判定	承認	

審議課題一覧に戻る